

～さあ夏本番、ほっとプラザのエアコンは直りましたから涼しいですよ～

ザックリと

<今月のテーマ>

お話します

心理検査と知能検査について

お子さんの発達について相談していると、当相談室や園・学校、主治医から「検査をしてみましょう」と勧められることがあります。発達の遅れや凸凹で不安を感じているところに、さらに追い打ちを掛けられるような気分になってしまうかもしれません。

今回は保護者の方向けに少しでも不安を和らげることが出来るように、何のために検査を行うのかをお話したいと思います。難しい専門用語は出来るだけ分かりやすく解説していきますので、どうぞお付き合いください。

Q. 何で検査が必要なの？

A. 発達の遅れや凸凹のあるお子さんに検査を受けていただくと、お子さんの**知能指数**や**認知特性**が分かります。

<知能指数>

いわゆる「IQ」のことです。注意力や記憶力、語彙力など、いくつかの検査を行います。客観的な数値で表すために数千人の人にこの検査をして「標準データ」というものを作り、検査を受けた人が「標準データ」のどの位置にいるのかを数値で表したものが一般的に「IQ」と呼ばれています。

IQは全体のどの位置にいるのかを示すもので、頭の良さを表した数値ではありません。数値だけに注目するのではなく、その子の得意・不得意を知ることが大切です。それでも数値の高い低いにドキドキしてしまうのは仕方ありませんが、IQの数値は揺れ動いたり幅があるものなので絶対的な数値ではありません。IQは学力や体力と違って努力して伸びるものではないのでその時々でコンディションで変化します。あくまで「現時点では」ということをご理解ください。



<認知特性>

IQの説明で、「その子の得意・不得意を知ることが大切です」とお話ししました。「知能」は「記憶する力」「読む力」「計算する力」「書く力」「推理する力」「判断する力」など、様々な能力で出来ています。検査の結果を数値だけに注目するのではなく、「記憶力は弱いけど、推理する力は強い」などと、その子の「得意・不得意」いわゆる凸凹加減を知ることが、その子の支援を考える時にとても役に立つのです。例えば、何かの指示を耳で聞くことよりも、黒板やメモで書いたものを目で見た方がスムーズに動きやすい、ということが検査を受けると分かることがあります。

<今月のまとめ>

これまで育てにくさを感じていたことが、お子さんにとっては「苦手なこと」だった可能性があります。何度言っても理解出来なかったり、親が叱っても言うことが耳に入っていなかったことで、お子さんにとっては「出来ないことで叱られる」というネガティブな体験やイメージに繋がっているかもしれません。

検査の結果から、お子さんの知能や特性を知った上で「長所を活用した支援」をすることにより、お子さんの自尊心や自己肯定感をより育むことが出来るようになると思います。

心配や不安なことがあったら、まずは当相談室スタッフにお声掛けください。